中村俊定文庫
文庫 18
667

多和らの

12

重厚接

猶小芭蕉を忘て仏祖の神乃まゝ
書たゝ書の句を有て人きゝあ後を
試せゝ知る時分和尚事ゝ心
發句門人小秀逸あ有句ゝ
百花吟賞ゝ仏法ゝ
仏祖いゝ 徒の日を陳ゝ次

宮城県図書館

中村俊定文庫

二条殿下ニ

花すすきはるかに人このゆうべ
ちるを哀ふひのれぬる　袖　真徒
鷹よもふ祈世の雄ふたたび　幽齋
ちるまやとりは仮ふさ　重賀
月おそく虚空を長はやとふん　一成
夜いとそ新　呂の戰　學

秋の夕柳屋の高さ比べて　成

こうり崔は精むさゝ数　厚

くせしことゆえふつゝきゝ二度三度　成

新七夕　厚

合歓乃葉よゝ降るあもゝ　成

掃除つゝ拵る庚申棚　厚

にぎやかに下りて居うち明屋の灯　成

新業妓とりの後月をさく　厚

初厂の蛾杖をつゝる文糸割　成

てよの宗とゝ寄る夏雲の牛形　厚

ちゆゝ橋の下り胞稲埋　成

おもせもふ真珠笠とる　厚

こゝろ明かまりけるこゝ　厚

森樹をかゝる衛立の夏　成

暗りゝ夷の塵をふきあもせ　厚

美人りゝ松まりる　成

南天の杖つくるを聞くに
小安堪乃墨ふまるる
口上をなこの七日ばかり笑ひ
枕元をさしてふ宮仕の金とし
格豊粮の身分大るふ持つて
いるるもの〳〵堪丸乃油
彩たのこ月子寵るの髪なく
穂蓼乃あるる半鳴を哉

厚成
厚成
厚成
厚成
厚成

柚乃針の袂よのこる附まるら
君もつかれるり湯をる
左兵衛の胃の氣色は唯るぬ
金さほまるぬやきのむきえ
法の妻酒のおるたまて
左根の服乃ふるあり任

厚成
厚成
厚成
厚成

洋野内匠頭に

池の鷺十八名はみとりこの姿　貞徳

ほたるこしのつゆ橋はたの花　幽齋

飛ぐ井は未のゑんぐ橋物　重厚

さくすすきに色の髪は墨つきん　一成

草木こそ海なれ人と

約束ちがへしの概のこと世ゝ　菊女

葉平は枕たの後すゝ川

馬丸廣鄉

ゝ数ゝ鶏の聲あ桜やゝ　立圃

糸ゆふ雨ゝ雨ゝ夏の風ゝ　重厚

つゝ庭ゝ雨ゝうゝの芭蕉　重厚

河ゝなく弥生ゝまふ　井谷

世ゝ人を嘆ゝ秋たる　井谷

[illegible]　厚

[illegible]　谷

[illegible]　厚

宇治拾遺きの[illegible]　谷

あ[illegible]梨嚏[illegible]人のとのむる　厚

[illegible]　谷

火の[illegible]紀史鈴[illegible]中[illegible]置　厚

引[illegible]の[illegible]ふ[illegible]下る月[illegible]　谷

嵐十二のる[illegible]　厚

鎌[illegible]早稲田[illegible]　谷

四[illegible]仲[illegible]　厚

弦[illegible]海[illegible]　谷

[illegible]　厚

然[illegible]　谷

[illegible]　厚

花芝蓋一ぢん入まる井の筒　谷

相会　雲をてらすのきとむ　厚

相軍の敵　ちらしなるりかさり　厚

なきさまたすれ雑の声　谷

九鏡ねうひのうちうつる　厚

白きちりぬ秋　谷

紬ゆる朱雀を野ゆきき　厚

神の御幣ちはるる　谷

酒のあと馬も流れて戦争のり　仝

教寺屋にきゐち　三本　厚

題目　只世の中をうつる　谷

時ちかく紅をすれ　厚

唐那おろし花のさりをうつる　谷

いろや　秋のちりぬんとする　厚

[illegible]や雪[illegible]
[illegible]
[illegible]や上と聖[illegible]
川島や柳[illegible]の暗
[illegible]川助[illegible]

立圃
南擧
井谷
成友
重厚

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

太来
其角
素堂
重厚
宗讃
厚子

秋萩を葉にもつまる香のもの　仝
ふるゝ雨の露の玉影　讃
樸笛をたゝらに見るまのせんり　厚
聚心屬のたゝらに蛸衛のそよ　讃
翁乃引茅出度貢ぶん　厚
樽ゝ乃磨明き月　讃
屑ゝ乃角カフ屑ゝ乃ゝ乃ゝ　厚
参ゝ乃ゝ　こ張あ　讃

大童子尾乃ゝ乃ゝ　厚
糠ゝ乃ゝ女ゝ　讃
よゝ乃ゝ乃ゝ　厚
雪乃ゝ乃ゝ　讃
宗七川ゝ乃ゝ　讃
八幡佛ゝ乃ゝ　厚
胡椒俵ゝ乃ゝ　讃
米ゝ乃ゝ　厚

あひのこ匂ひのこりにうちもれ　讃
暮日の寺側をとぶさぬ　厚
月入るほの〻の新れる水驛　讃
豆ぬすびと逃きぬるとこ　厚
鐵きる禪の小屋の秋ふかし　讃
猫ねむりつゝ新あひ　厚
五六艘木まくらの年とふる松　讃
坂つゝれをとのり旅鞋　厚

このなふこの文解をゆ鑑る概かなめ　仝
氣世古史のたえとれとるを　讃
ふゝ忘すり灰ふきこ寄るたゝこほん　厚
ちり和年第り遠入るかれ　讃
されとゝゝ奴世ロりふをろ　厚
木綿さのの厚も柳のとまも　讃

聖護院にて富居

家こぼちの中なれば屋ひや機自　太素

うぐひす鳴吟とりの飯こさい　其角

酢、あらやむなり女の子居りやあり　素堂

きりぎりす白ふるものかたあるを　宗設

めしたくあるうち　まのあ　重厚

さ乃くれ事ぶ[illegible]ひわれ梅の那　大安

夫のりまやく笠りまの　探丸

小竹のこの手洗ふ油かきたてく　重厚

魚の背割　乃塩あわせ利　其由

早苗振の山立あ[illegible]ほかさ手　雪

曙ぶく——徴雨さきの　由

[illegible]

仇なしの松　清水の神　厚

藁草履ふみならす馬の尿　由

さゝぬ湯婆の置とゝろ哉　厚

孫なりの八嶋の酒乃弓張し　由

祝ふなり声のかぎりの[illegible]　厚

[illegible]の打つる烏帽子親　由

芙蓉木の枕　こゝ迄

[illegible]の下蒲[illegible]　厚

姫閑[illegible]雪月の[illegible]　由

[illegible]の[illegible]手の[illegible]　厚

やちりの草[illegible]の芭　由

花ゝ[illegible]の[illegible]　由

[illegible]小[illegible]　厚

[illegible]元の世[illegible]　由

長[illegible]の[illegible]　厚

[illegible]川　由

太郎の胴丸　[illegible]　厚

掛雪あり　[illegible]　由

被[illegible]　厚乃機敷

をとゝへ　小杉の[illegible]　由

[illegible]　厚

杜五郎門の戸たゝく　杉の[illegible]　由

炭の[illegible]を大[illegible]かめる　厚

[illegible]四丁[illegible]　厚

十[illegible]　由

[illegible]あり　由

[illegible]　厚

[illegible]　厚

[illegible]　由

遁世のとゐ

雲こゝ庵てゝ月おのや俤のまゝ口ゝれ　之義

翁のつゝひゝきゝれ蘇東

何果の日

雲車たゝふゝもゝつるきゝや橋のと　蟬吟

牡丹さくやいゝゝを代ゝゝ人ゝのつゝ　重厚

夏とゝふゝを

雑度花ゝ月おねのかゝこゝのな　其由

うゝゝゝや蟬もさゝゝゝぬきゝるほと　其角

住居よゝゝゝあゝゝのふゝぬな　嵐雪

雑面ゝのゝゝゝを笠ゝゝゝ夏ゝのゝゝ　重厚

こめ一斗ゝゝゝる世ハのゝゝふゝり　寸未

月ゝゝゝゝゝゝのゝゝ舟あゝん　厚

秋さゝゝゝゝ世ゝゝ月　未

紅葉の時ふるさと秋山神　重厚

小力なく剛伽楠の　拔　寸来

垣結ひ来ら夜叉の古ちまき　厚

ゆすりふる双六の　心動　来

ふる雪をよむ浅茅　枕　厚

京ひなる姫つくふ玉の緒　来

加留と紀勢鮮人も象も来る　厚

友まかる初元の珠　来

西行忘糸好物詩をつくれ　厚

月ちかの後ち矢庫風の新　来

枝ぶりの花のこのもの杉枕　厚

鶯いくの古思に寄せ　来

早ちまね出あの沒の後ち嘆き　来

たつきりくすす白を病　厚

親王の時方中世つうひて　来

火ふらてら融寄　厚

志ゝ蓮ゝはの〳〵の乃ゝちきゝ　来

にゝぎ栄あゞりの石乃花めり　厚

仮名ゝ遊ゝ風流ゝ神のせゝ　来

の人乃絵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　厚

石ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ出る吉備の名に　来

中の玄のゝ〳〵ゝ〳〵ゝ川　厚

くゝひ乃赤き蘭扇り見ゝ　来

玉屯ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　厚

草庵乃夢とこゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　来

鉢ゝて　芭蕉の名ゝのゝ〳〵ゝ　厚

細腰りゝゝ〳〵ゝ帝草履　来

かゝれのあゝゝ〳〵ゝ　厚

能中とのゝ〳〵ゝ〳〵ゝ　来

八十八板り〳〵ゝ〳〵ゝ　日　厚

[illegible]

[illegible]ねの[illegible]おもりこの　小油　其角

破[illegible]顔[illegible]おとろき[illegible]　蕭[illegible]　嵐雪

紙[illegible]ぬ[illegible]のきし[illegible]しはの[illegible]　重厚

寸未

寒[illegible]とりもありや[illegible]大根　許六

[illegible]しる北[illegible]の妹　[illegible]

[illegible]雪[illegible]馬を車[illegible]　蘭嵐

[illegible]人[illegible]　重厚

[illegible]の椎を拾ひ[illegible]　袁丁

いま[illegible]とふ妙を知る　厚

伊勢こまち記るまくとき彫り　厚

ばくかうの繼箱の桂　丁

ほそうもをもをもをもをすし　又彫すけ　厚

新もうさきさ麻もをのつゆ　丁

西頂庵の酒屋徳のもとー　厚

人魚なるもあるもあるる　丁

節分豆の目つきを置わるき　厚

くもをこをちの淀をたづぬる　丁

よこくわもを瓜をふる川の虎ひろお　厚

柳なる小舟もるさむきを　丁

芝高屋世夢をををむるるん　厚

芭蕉撰ふるる蕉せんを　丁

さまるの名の名の俗を張の紙　丁

おをを文金ををね振るを　厚

癖疲り猫の同墨をかるつ　丁

日をおちかる蜻の石鞭　厚

旭はのひを宮ゐの鶯ふかるもせり　丁

ゑき遊節り餅こあを嗅　厚

いつの宵よりを立ちす堂付ゐ　丁

あ戸桜時きり杉苗をふむ　厚

おとりもきを弥ゐ恐の曲あるや　丁

汁とあるく幕の乳をめふ　厚

舞ももすりの洗れとるり　丁

樹ゐの枝ゐ月ゐのるる　厚

秋のゐ残麻ちりせきゐを　厚

逆あ川ゐを光を絞ふる　丁

般想文赤の町をふ家ゐ　厚

砂ゐるゐ川トの松乗　丁

ゐてゐ苗ゐるき事ゐ市角　厚

鳥ハ吹ゐ雀をちゐ　丁

八月十五夜

陸中めせてはゆ所の山水ろし　計六

とせ代庵の宗

夏山のこなたの松ぞ　蘭風

松風をさそふなりけり桐の葉　袁丁

夫とゆめ思ふ平の大将の事　重厚

三面大異の賛

こゝ語せを神の陸中のこゝろを　其戎